京都市文化観光資源保護財団

# 会報

No.54

## もくじ


京のよさをまもって(17)「室町文化と金閣」
鹿苑寺執事長　江上　泰山　P 4
京のやしろと文化財(1)「御香宮と伏見城」
御香宮神社宮司　三木　善則　P 6
京のみちを歩く(14)「酒蔵のまち―伏見」　P 7
目で見る京の文化財(24)「京の染織品」　P 8
京の伝統行事芸能(17)「紅葉音頭」
紅葉音頭保存会会長　白川　幸照　P10
文化財あれこれ(3)「大田の沢のかきつばた」
賀茂別雷神社宮司　阿部　信　P12
保護財団の活動　P14


会報題字　理事長　佐伯　勇
表　紙　大田の沢のかきつばた群落


会　報
No.54　1989. 5. 15

編集・発行
財団法人　京都市文化観光資源保護財団
京都市左京区岡崎最勝寺町京都会館内
〒606 電話 075―752―0235（代）

## 募金にご協力いただき ありがとうございました

寄付者芳名録（敬称略）63.11.21～1.4.5

**―法人及び団体の部―**

**〔特別会員〕**

※三菱信託銀行株式会社 〈1,600万円〉
※安田信託銀行株式会社 〈1,150万円〉
※日本信託銀行株式会社 〈550万円〉
※岡秀株式会社 〈500万円〉
※任天堂株式会社 〈300万円〉
※財団法人伝統文化保存協会 〈175万円〉
ダイニック株式会社 〈150万円〉
※旅館丸家 〈65万円〉

**〔普通会員〕**

※株式会社鶴屋吉信 〈36万円〉
※旅館松葉亭 〈25万円〉
※土屋便利堂 〈17万円〉
※伸和建設株式会社 〈15万円〉
※ヤマカワ株式会社 〈10万８千円〉

**〔賛 助 員〕**

※株式会社吉兆嵯峨支店 〈４万８千円〉
※株式会社岩佐商店 〈４万円〉

**―個人の部―**

**〔特別会員〕**

※伊砂利彦 〈180万円〉
※高橋政幸 〈50万円〉
※池田喆一 〈30万４千円〉
※丸山未棹 〈20万５千円〉
※荒川昭 〈20万円〉
※佐藤昭三 〈17万円〉
※柴田二郎 〈17万円〉
※竹内キミ子 〈17万円〉
※高橋一男 〈16万１千円〉
※竹内孫兵衛 〈16万円〉
辻田純二 〈15万円〉
※今井栄一 〈14万５千円〉
※友田弘治 〈12万６千円〉
※村田陶苑 〈12万５千円〉
※田尻正雄 〈12万４千円〉
※三原慶三郎 〈12万３千円〉
※渡辺幸子 〈12万円〉
※安田孝夫 〈11万４千円〉
※小野初恵 〈10万１千３百円〉
※上田長雄 〈10万円〉
※奥崎一郎 〈10万円〉
※加藤雅一 〈10万円〉

**〔普通会員〕**

※横山政二 〈９万円〉
※甲斐幹 〈７万５千円〉
※辨官弘晃 〈７万円〉
※奥田芳男 〈６万１千円〉
※青木文子 〈５万９千円〉
※大野健三 〈５万１千円〉
※金井利夫 〈５万１千円〉
※遠藤伊之助 〈５万円〉
※小田嶋弘 〈５万円〉
※上田真一 〈４万９千円〉
※平野和彦 〈４万５千５百円〉
※駒井桂之助 〈４万２千円〉
※上村芳蔵 〈４万円〉
※前田ふみ 〈３万８千円〉
※西原寿子 〈３万７千円〉
※野村鉄治 〈３万４千円〉
※山田順三 〈３万４千円〉
※伊藤昭 〈３万３千円〉
※寺嶋瑛 〈３万２千円〉
※小田嶋綾子 〈３万円〉
※小林幸子 〈３万円〉
※野村幸三郎 〈３万円〉
※山崎次策 〈３万円〉
※梶村ふみ子 〈２万９千円〉
※盛田准子 〈２万９千円〉
※佐村伸一 〈２万５千円〉
※西田實 〈２万３千円〉
※今井二郎 〈２万２千円〉
※金丸弘 〈２万円〉

**〔賛 助 員〕**

※並河百合子 〈１万８千円〉
※小川幸次 〈１万７千円〉
※手塚栄子 〈１万７千円〉
※宮崎卓郎 〈１万６千円〉
※岸本幸子 〈１万５千円〉
※高木公三郎 〈１万５千円〉
※山本春美 〈１万５千円〉
※佐藤昭夫 〈１万４千円〉
※中山正子 〈１万４千円〉
※上田と志 〈１万２千円〉
※内山義一 〈１万２千円〉
※澤村彰 〈１万２千円〉
※長岡満 〈１万２千円〉
※細川満 〈１万２千円〉
※吉岡忠義 〈１万２千円〉
※岡本直三 〈１万円〉
奥西広司 〈１万円〉



※小川利子 〈１万円〉
倉田繁一 〈１万円〉
※杉丸一美 〈１万円〉
都築千代子 〈１万円〉
高橋民江 〈１万円〉
古谷宏一 〈１万円〉
※野阪喜一郎 〈９千３百円〉
※磯松良純 〈９千円〉
※藤塚吉太郎 〈９千円〉
※由利松治 〈８千７百円〉
※由利多 〈８千７百円〉
※楠部恒子 〈８千円〉
※小笠原澄江 〈６千円〉
※佐伯美代子 〈６千円〉
小川喜代子 〈５千円〉
※貴瀬勝 〈５千円〉
小尻貞子 〈５千円〉
※徳留ユミ 〈５千円〉
冨田豊 〈５千円〉
西村藤平 〈５千円〉
※八木ユキエ 〈５千円〉
渡辺清子 〈５千円〉
※西村昇 〈４千５百円〉
※今井春美 〈４千円〉
※坂本亘 〈４千円〉
※田中敏 〈４千円〉
※山本和彦 〈４千円〉
中路政美 〈３千円〉
※西村明子 〈３千円〉
山本ミサヲ 〈３千円〉
柴田田鶴子 〈２千円〉
相馬すみ子 〈２千円〉
※田中繁春 〈２千円〉
※林時子 〈２千円〉
林裕之 〈２千円〉
藤井明美 〈２千円〉
※宮後信子 〈２千円〉
山岡冨美 〈２千円〉
吉田美千子 〈２千円〉
岡田朗子 〈１千円〉
矢野尚子 〈１千円〉

※印は、追加寄付の篤志者。寄付金額は累計額。なお、平成元年４月５日以降の寄付者の方につきましては、紙面の都合により今後順次紹介させていただきますので御了承下さい。

## みなさまのご協力が京の文化財を守る大きな力となります

当財団では、祇園祭や大文字五山送り火など伝統行事や各社寺をはじめとする文化財をまもるため、現在京都市民や観光客をはじめ地元、全国の会社法人等に募金協力の呼びかけを積極的におこなっております。

会員の皆様には、基金へのより一層のご協力をお願いするとともに、京都の文化財を守るこの運動への参加をまわりの方々にも呼びかけて下さい。

金額の多少にかかわらず皆様のご協力をお待ちしております。
新たに基金にご協力いただきます場合は同封させていただいております納付書によりご送金下さい。

寄付金についてのお問いあわせは、当財団事務局まで

TEL（075）752―0235㈹

京のよさをまもって（17）

# 室町文化と金閣

江上泰山

金閣寺は、正式名称を鹿苑寺という。鹿苑院殿足利三代将軍義満公の山荘であった北山殿を母胎として成り立ち、その死後遺名によって禅寺となったことは周知のことである。

義満は学問を好み、高徳の僧について参禅弁道につとめ、崇敬していた夢窓国師の高弟、春屋妙葩禅師と相談して、京都五山の第二位に列せられた相国寺を創建した人でもあるが、また元寇以来中絶していた明国との貿易を再開し、西園寺家から譲りうけた別荘に北山殿を営むなど、いわゆる五山文化の基礎を確立する一方、自ら和歌、楽、書をよくし、能楽では世阿弥をひきたてるなど、室町文化の力強い指導者でもあった。

重文 足利義満像　蔵：鹿苑寺

今日、金閣寺の名で全国に親しまれている鹿苑寺は、建築、庭園文化史上、義満の精粋が結晶しているといわれる。とはいえここにも、いくたの栄華と悲劇をくり返しながら、その美しさを保ってきたのであるが。

昭和25年７月２日未明、義満の北山殿唯一の遺構であった金閣が、一点無明の祝融子に見舞われて焼失するのを、ただ呆然として眺めていた一人として、今この小文を書くにあたり読み返した寺史の中で、歴代の住職が古くは応仁の乱後の混乱期、近くは明治の廃仏毀釈における経済的圧迫の時機を乗り越えて、金閣の保存に心血をそそいで護伝してきた労苦を知るにつけても、金閣を失ったショックは余りにも大きい。

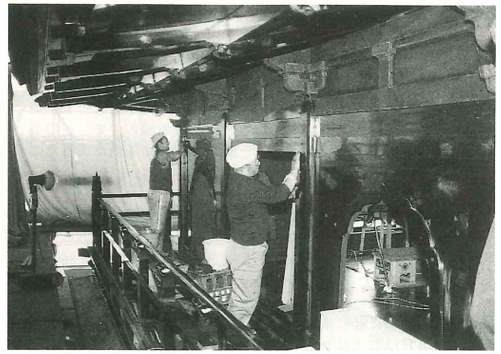
だが、金閣の業火は当時の世相の一つの現われでもあった。敗戦後の虚脱時代に社会が古文化財にまったくといっていいほど、関心を持ちえなかった結果ともいえなくはない。

昭和30年10月、金閣がもとの金閣の様式をそのままに再建された時、義満が建てた当時の真新しい黄金閣をこの目で見られたというまったく思いもよらないできごとに、皆が一様に喜びあったのである。

この新金閣も30年の風雪には堪えきれず、金箔が色褪せ、剝落が著しくまた下地の漆が紫外線で破壊され、白化現象を起してきたのである。

今回行われた修理では、漆を全部そぎ落して一旦白木の金閣に戻し、下地からやり直すという大工事であった。この白木金閣に国産の漆を使い、しっかりとした漆層を形成させるための工程が60工程にも及んだ。この漆を紫外線から護るのに、いわゆる五倍箔の金箔が貼られて工事は完成した。





今回、おこなわれた金閣の修理は、漆塗りだけでも60工程に及び、５倍箔の金箔が貼られる大工事であった。

昭和62年10月、燦然たる輝きに身をつつまれて、金閣は創建当時の姿そのままに再び甦った。落慶法要には世阿弥のよき理解者だった義満を偲んで、観世流一門により華かに義満能が奉納された。

世の中には「さび」たもののみを大切にする風潮があるが「さび」たもののみが必らずしも美しいのではない。建築されたばかりの、あるいは修復されたばかりの木の香や、漆の匂いの漂う建物には、やはり新鮮な力強い美しさがある。焼失した金閣に深い愛着を感じるのは「わび」た建物がなくなったからではなく、室町時代の建物を失ったからである。

このたび修復がなって拝観が再開され、連日多くの参拝者が鏡湖池畔に立って感嘆の声を挙げているのを聴くにつけても、明治27年頃、十二代住職であった伊藤貫宗和尚が、窮乏の策として庭園の公開にふみきられた時の話を思い出す。

創建当寺の姿に再び甦った金閣（舎利殿）（撮影 柴田秋介）

京の金閣寺を拝見なしたか、ご覧じなしたか、楠天井の一枚板ではないか、萩の違い棚、南天床柱、名勝、名勝

という俚謡を自ら作り、祇園や上七軒の芸妓の協力を得て宮津節にのせて唄ってもらい、大いに寺の興隆に努力されたこととくらべて、隔世の感一入である。

ともあれ沢山の人にこの境地に接してもらうことにより、庭園の一木一草が絶えず唱えている「無字の経」を心耳に聴いてもらいたい。

（鹿苑寺（金閣寺）執事長）

京のやしろと文化財（1）

# 御香宮と伏見城

三木善則

当社は、旧伏見町の総鎮守の神社で御祭神は神功皇后他九柱の神々が祀られています。

本殿は、慶長10年（1605）徳川家康公の造営、表門は元和８年（1622）徳川頼房公の寄進で、いづれも国指定の重要文化財です。また、拝殿は寛永２年（1625）徳川頼宣公の寄進で、京都府指定有形文化財です。

豊臣秀吉公は、金熨斗付太刀（重文）、徳川秀忠息女千姫は、金銅装神輿一基並びに徳川義直公は葵紋糸巻太刀をそれぞれ奉納され、今日社宝として伝わっています。

洛外の地、伏見庄の氏神にこの様な文化財が何故伝わっているのでしょうか。それは、豊臣秀吉公がこの地に伏見城を築城したからです。秀吉公は、当社を信仰して太刀を奉納、城の鬼門除けの神として城内に勧請しました。（深草大亀谷古御香町・御香宮社の地）秀吉公の歿後、家康公は当社をもとの地に復し本殿を造営したのです。

家康公伏見在城時代に、頼宜（紀州）、頼房（水戸）、義直（尾張）のいわゆる徳川御三家の藩祖と千姫は伏見にて誕生され、その故を以って当社が氏神として信仰され、家康公にならって種々奉納されるに至ったのです。

平安文化を育んだ京都旧市内には、当時の建造物は一棟も存在しません。一方、桃山文化が花と開いた伏見桃山には、この文化の特徴を顕した当社の本殿拝殿表門の建造物があり、桃山文化の香りを今日まで伝え、伏見が僅か30有余年でありましたが日本の中心であった事を証明する記念碑的性格を有している文化財と確信しています。

この他、境内の石垣礎石等の石材は刻印石の存在により、伏見城廃城後の石垣の転用材であったことが確認されています。以上のように、当社の文化財は伏見城の存在なしには語れないのです。

（御香宮神社宮司）

**御香宮神社**

（京都市伏見区御香宮門前町）

本殿には、神功皇后、相殿には仲哀天皇、応神天皇、仁徳天皇等九柱をお祀りしている。清和天皇の貞観４年（862）この地から清泉が湧きでて、その香気が四方に薫り、病人がこれを飲むとたちまち病が去ったので、神殿を建て御香の宮と称したと伝える。

弘安３年（1280）蒙古襲来にさいして天皇の行幸があり、勝利の祈願がなされるなど、歴代朝廷の崇敬もあったが、度々の天災や兵乱で室町時代末には荒廃した。近世に入って豊臣秀吉は当社を深く崇敬し、社殿を一時は伏見城内に移したほどであった。慶長10年（1605）旧地であるこの地に社殿を建立した。現在の社殿はこのときのものである。

門内西側には、伏見の義民文珠九助の顕彰碑がありまた、10月９日におこなわれる神幸祭は、伏見全域のにぎやかな祭礼である。なおこの場所は、明治元年１月鳥羽伏見の戦にさいし、薩摩藩の陣営がおかれ、伏見方面の砲戦の火ぶたがきられた所である。

豊臣秀吉ゆかりの旧伏見城の遺構を数多く伝える御香宮神社（写真中央は、重要文化財の表門）

慶長10年（1605）徳川家康により再建されたと伝える本殿（重要文化財）と京都市の文化財として天然記念物に登録されている京都市域ではめずらしいソテツ（写真右下）

10月１日～10日におこなわれる御香宮神社の神幸祭。伏見全域に及ぶにぎやかな祭礼である。

京のみちを歩く（14）

# 《酒蔵の町—伏見》

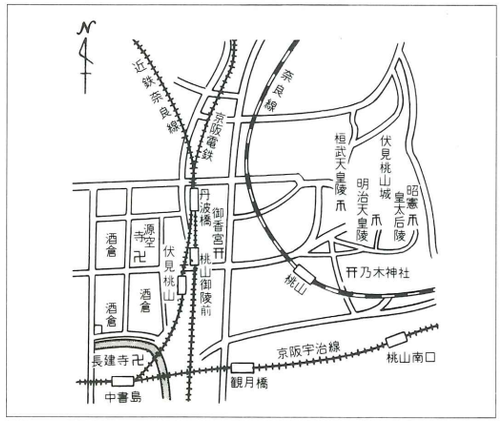
「伏見」といえばまず頭に浮かぶのがお酒。兵庫県の灘と並び、日本中に知れわたった酒どころである。古くは「伏水」と書かれ、その良質の水はやや甘口の酒を生み出し、現在全国で3,000軒以上ある蔵元のうち、一社でその産出額が全国一を誇る銘柄をはじめ約40の蔵元がこの地域に林立している。

近年、醸造技術の発達により工場の近代化が進んでいるが、白壁土蔵造りの酒蔵は今も数多く残っており、その風情はやはり伏見独特のものである。

かつて、旧伏見城のあった本丸址には明治天皇の御陵があり、ほかに昭憲皇太后の御陵、平安遷都の桓武天皇柏原陵があり、深い緑に囲まれた広大なこの地域は、歴史を偲んで散策するにはもってこいの場所である。城下町であった伏見には、往時の諸大名の屋敷址に因んで名付けられた羽柴長吉、福島太夫、毛利長門、松平筑前など、古く珍しい町名があり、いかにも歴史を感じさせる。

—「京のみちを歩く」京都市文化観光局観光部発行より—

伏見の酒蔵



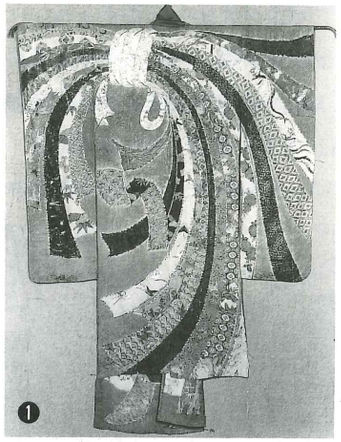
目で見る京の文化財（24）

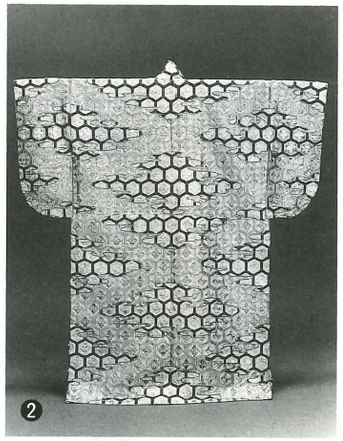
# 京の染織品

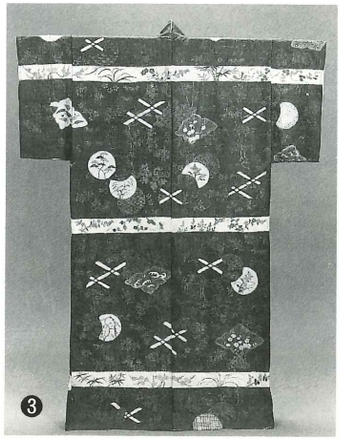
文化財の種別は、多種多様に分かれますがそのなかで染織品は最も生活に結びついた文化財の一つで、それぞれの時代の政治、経済、風俗の特徴をみることができます。

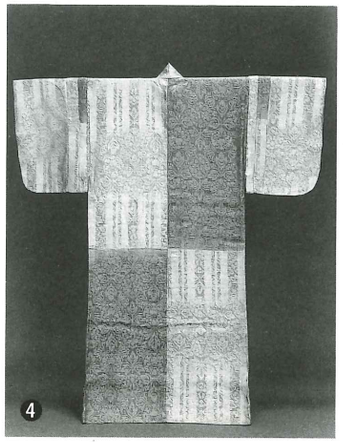
京都では、西陣を中心に優れた技術の染織品が数多く残されており、又桃山時代に外国との交易により伝えられたものなど数多くあります。

今回の目で見る京の文化財は、染織品をテーマになかでも衣服をとりあげご紹介いたします。









①絞縮緬地熨斗文友禅染振袖　重要文化財　蔵：友禅史会

江戸時代中期の友禅染最盛期の代表的作品といわれている。

②亀甲花菱文繻箔打掛　重要文化財　蔵：高台寺

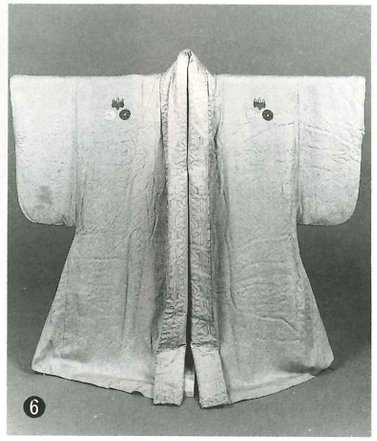
桃山時代の作品で、豊臣秀吉の正室北政所が所用したと伝えられる繻箔の打掛である。

③紫地段花菱円文散草花模様縫箔小袖　重要文化財　蔵：個　人

桃山時代の作品で、洛西の桂女の衣裳と伝えられる辻が花染の小袖である。

④綾地締切蝶牡丹文片身替小袖　重要文化財　蔵：芦刈山保存会

室町時代の作品で、祇園祭の芦刈山に伝えられる御神体の人形装束で、豊臣秀吉寄進といわれている。



⑤桐矢襖文辻が花染胴服　蔵：京都国立博物館

桃山時代の作品で、天正年間（1573～1592）豊臣秀吉から拝領したものと伝えられる辻が花染の胴服である。

⑥紗綾地菊桐絞胴服　蔵：豊国神社

桃山時代の作品といわれ、豊臣秀吉所用と伝えられる紗綾地の胴服である。

⑦納戸地曳船模様友禅染小袖　蔵：京都丸紅株式会社

江戸時代中期の作品といわれ、浮世絵師勝川春章（1726～1792）の下絵と伝えられる絵画的な図柄の友禅染の小袖である。

⑧賀茂競馬文様小袖　蔵：京都国立博物館

江戸時代の作品といわれ、5月5日の上賀茂の競馬神事を図柄にしている友禅染の小袖である。

⑨紺縮緬地雪中山里に梅樹文様小袖　蔵：京都国立博物館

江戸時代の作品といわれ、絵柄に「拾遺和歌集」の一首を歌絵文様にした小袖である。

参考文献
○原色日本の美術20「染織・漆工・金工」（昭和44年）　小学館
○「日本の染織」京都国立博物館編（昭和62年）　京都書院
○日本の美術6「染織（近世編）」切畑　健（昭和63年）　至文堂

# 紅葉音頭

紅葉音頭（もみじおんど）の発祥は明らかではないが、江戸時代初期から中期にかけて、庶民の間で流行した踊りや音頭に起源をもち、江戸時代のはやりうたや歌舞伎の台詞などから逐次作詩され、節をつけたものといわれています。

踊りの形態は、楽器を用いず音頭取の音頭にあわせて、三幅前垂れにたすきがけ、手拭であねさんかぶりなどをした女性が輪になって踊る静かで素朴なものです。

現在紅葉音頭は、京都市内の上賀茂、修学院地域の２カ所に伝承されており、それぞれ上賀茂紅葉音頭保存会、紅葉音頭保存会の方々によりおこなわれています。

又、伝承されている曲目は上賀茂と修学院で少しことなりますが、「里の秋」「近江八景」「紅葉の錦」「草子洗小町」など20曲程伝えられています。

紅葉音頭は、京都の貴重な民俗芸能として昭和58年京都市の無形民俗文化財に登録されました。

**◆紅葉音頭の公開日時**

□修学院紅葉音頭

日　時　毎年８月27日　午後８時頃

場　所　修学院離宮前

□上賀茂紅葉音頭

日　時　毎年９月８日　午後８時頃

場　所　賀茂別雷神社（上賀茂神社）鳥居前

賀茂別雷神社（上賀茂神社）の鳥居前で踊られる上賀茂の紅葉音頭。

## 修学院紅葉音頭について

白川幸照

去る昭和46年５月29日紅葉音頭保存会が結成されて以来はや18年になりますが大正、昭和の初期のように盛大に行なう事はむずかしいようです。若い人は昔ののんびりした踊りよりラジオ、テレビ等により新しい音楽にひかれて日々を送っている今日です。

しかし、音頭の内容をよく読んでみると大変参考になることが歌われており興味深いものです。例えば、早口言葉の練習に用いられる「ぼんけい」という音頭がありますが、

「山からくるはくるは何がくる狸百疋棒百本天目百ぱい箸百ぜんとって行くよあれみよみよ高野の山のこけらくず、ぱっとちりくる野なでしこに野ぜきちくあのごまがらは、白ごまがらか黒ごまがらか」

云々と歌っている。又、「草づくし」には

「露の命はけしの花、歩く姿は姫ゆりの、たれが引きけんたもとゆり、いうにいわれぬ鹿の子ゆり、おちごわげかや唐子ゆり、星なき空に雨夜ゆり、身の毛もよだつおにゆりの、君がよわいは曼珠沙華仙台荻とも祝いづる、これ三千年にただ一度花珍らしきうどんげのまれなるものど詠じける」

云々と歌っている。

これら数々の草花等歌人の参考ともなり音頭の内容に多くの学ぶべきものがあります。その他、名所旧跡等が面白く歌われている。これらのことは音頭を保存してゆくうえで大切な使命でもあり、ひいては観光の資源ともなり京の文化を守る一担ともなるのではないでしょうか。盆踊りが時代の移り変わりで昔のように盛大に実施出来ないのは残念ですが、せめて音頭だけでも後世に残したいと思っています。

（紅葉音頭保存会会長）

修学院では、踊りをはじめる前に松明をつけ、提灯の前に列座し、三方に盃をのせ給仕から酒を受けて乾盃する儀礼がおこなわれる。

切子燈籠一基を竹で吊るした屋台の回りを、三幅前垂にたすきがけをした女性が踊る素朴なもので、その形態は中世の面影を残す一種の念仏踊りである。修学院の紅葉音頭。

文化財あれこれ（3）

# 大田の沢のかきつばた

阿部　信

京都洛北の里に葵祭で有名な賀茂別雷神社（上賀茂神社）があります。この神社より東へ明神川に沿って社家町を通り500メートル程歩いたところに大田神社（上賀茂神社摂社）があります。

この神社の境内の東には、2,000平方メートル程の大きな沢があり一面に「かきつばた」が群生しております。又、この沢から東へ少し行ったところに深泥ケ池という池があります。深泥ケ池の花の花粉分析によればこのあたりは、一万年以上前から湿地である由にて昭和14年国の天然記念物の指定を受けております。

古く平安時代には、歌人藤原俊成卿が「文治6年五社百首」（1190年）のなかで杜若の歌を五首詠んでおります。そのなかで最も有名な歌は

「神山やおほたの澤のかきつはた

上賀茂神社の摂社である大田神社。境内の沢池に咲くかきつばたの群落は、国の天然記念物に指定されている。

深きたのみは色にみゆらん」

と詠んだ恋歌であります。

この歌にあります神山とは上賀茂神社の神様が降りて来られた御降臨山であり、神山にかかる「かきつばた」とは同地に違いない。又、平安時代より時季を違へず咲き続けているたいへん古い花であります。

大田の沢のかきつばたは紫一色で、5月の初旬より咲き初め5月下旬頃まで花が咲いており、見頃は中旬頃になります。

天然記念物の指定を受けてからは、花の維持保存のため、年に一回雑草抜きなどの手入れを行なっております。

花の開花中には、上賀茂神社婦人会の人々により茶菓の接待を行なっております。

（賀茂別雷（上賀茂）神社宮司）

平安時代から、かきつばたが咲きみだれて名勝地となっていた。5月中頃には濃紫、鮮紫の花が美しく咲く。



# 京の主な年中行事（6月～9月）

## 6月

| | | |
|---|---|---|
| 1・2日 | **京都薪能**（午後4時30分・有料） | 平安神宮 |
| 8日 | **平安神宮神苑無料公開** | 平安神宮 |
| 10日 | **田植祭**（午後1時） | 伏見稲荷大社 |
| 20日 | **鞍馬竹伐り会**（午後2時） | 鞍馬寺 |
| 30日 | **夏越祓** | 地主神社・平安神宮<br>貴船神社・車折神社<br>上賀茂神社 |

## 7月

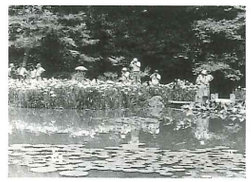
| | | |
|---|---|---|
| 1～29日 | **祇園祭**<br>（10日　神輿洗・お迎え提灯<br>17日　山鉾巡行〈午前9時出発〉<br>24日　花傘巡行〈午前10時出発〉） | 八坂神社と各山鉾町 |
| 7日 | **七夕祭**（午前10時・午後1時） | 北野天満宮 |
| 7日 | **精大明神例祭**（午後3時） | 白峰神宮 |
| 7日 | **貴船の水まつり**（午前10時） | 貴船神社 |
| 9～12日 | **陶器供養法要と陶器市** | 千本釈迦堂 |
| 16日 | **御田祭**（午前9時30分～正午） | 松尾大社 |
| 19・20日 | **きゅうり封じ**（19日　宵祭　正午～午後9時<br>20日　本祭　午前6時～午後6時） | 五智山蓮華寺 |
| 22・23日 | **辨天祭**（22日　宵宮祭　午後6時<br>23日　本宮祭　午前9時） | 長建寺 |
| 22・23日 | **本宮祭**（22日　宵宮祭　午後6時<br>23日　本宮祭　午前9時） | 伏見稲荷大社 |
| 28日 | **御手洗祭**（午前5時～午後10時） | 下鴨神社 |
| 31日 | **千日詣り**（午後9時～翌午前2時） | 愛宕神社 |
| 31日 | **茅の輪の神事**（午後11時～） | 御香宮神社 |

## 8月

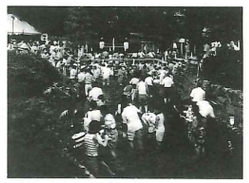
| | | |
|---|---|---|
| 6日 | **夏越神事**（午後7時） | 下鴨神社 |
| 7～10日 | **若宮陶器大祭** | 五条坂一円 |
| 7～10日 | **六道まいり** | 六道珍皇寺 |
| 8～10・16日 | **六波羅蜜寺万灯会**（法要　午後8時） | 六波羅蜜寺 |
| 8～12・16日 | **六道まいり** | 千本釈迦堂 |
| 9・10・16日 | **万灯供養会** | 壬生寺 |
| 14～16日 | **東大谷万灯会**（午後6時～9時） | 東大谷 |
| 14～16日 | **万灯会** | 車折神社 |
| 15日 | **花背松上げ**（午後9時頃） | 花背八桝町 |
| 16日 | **大文字五山送り火**（午後8時） | 各五山 |
| 16日 | **精霊送り万灯流し**（日没～午後8時30分頃） | 嵐山 |
| 23日 | **久多宮の町松上げ**（午後9時頃） | 久多 |
| 24日 | **広河原松上げ**（午後9時頃） | 広河原 |
| 24日 | **雲ケ畑松上げ**（午後8時頃） | 雲ケ畑中畑町・出谷町 |
| 24日 | **久多花笠踊**（午後9時頃） | 志古淵神社 |
| 27日 | **修学院紅葉音頭**（午後8時） | 修学院離宮前 |

## 9月

| | | |
|---|---|---|
| 1日 | **八朔踊**（午後8時） | 江文神社 |
| 8日 | **上賀茂紅葉音頭**（午後8時） | 上賀茂神社 |
| 8・9日 | **烏相撲と重陽神事**（8日　内取式　午後8時<br>9日　重陽の神事　午前10時） | 上賀茂神社 |
| 16・17日 | **萩まつり** | 梨木神社 |

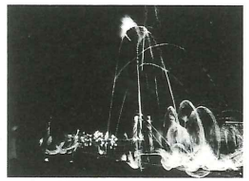


平安神宮　神苑



下鴨神社　御手洗祭

東大谷　万灯会



久多宮の町松上げ

※都合により行事日程が変更される場合があります。

## 保護財団の活動

昭和63年度

### 文化観光資源保護事業補助金交付

### 四大行事・文化財修理など

### 83件に総額7,120万円を助成

去る４月６日に開催しました当財団の第40回理事会、評議員会において昭和63年度文化観光資源保護事業に対する補助金の交付を決定した。

この補助金は、会員の皆様からお寄せいただいた寄付金をもとに、学識経験者で構成する文化財専門委員会で選定された保護事業に対し助成をおこなっているものです。

今回の補助金交付内容は、次のとおり。

### １．四大行事保存執行に対する助成

**９件　　補助金 4,318万円**

―対　象―

○葵祭行列執行

○祇園祭山鉾巡行執行

○祇園祭山鉾修理

○大文字五山送り火点火執行

○大文字五山送り火火床整備（４件）

○時代祭装具保全

### ２．文化観光財保護事業に対する助成

**32件　　補助金 1,924万円**

○建造物の部　　17件

―対　象―

浄福寺経蔵屋根葺替工事・八幡社本殿屋根葺替工事・信行寺本堂屋根葺替工事・要法寺本堂屋根葺替工事・真正極楽寺大玄関屋根葺替工事・金福寺芭蕉庵屋根葺替工事・新日吉神宮楼門屋根葺替工事・両足院書院解体修理工事・称名寺本堂屋根葺替工事・養源院内仏殿屋根葺替工事・八幡宮拝殿屋根葺替工事・本願寺山科別院山門屋根葺替工事・元慶寺鐘楼門解体修理工事・上徳寺表門屋根葺替工事・麟祥院本堂屋根葺替工事・天授院表門屋根葺替工事・月輪寺本堂屋根葺替工事

―八幡社（京都市左京区）本殿―　三間社流造で、江戸時代前期の建立といわれる。今回、屋根葺替工事がおこなわれた。

―元慶寺（京都市山科区）鐘楼門―　寛政９年（1797）の建立と伝えられる竜宮造りの表門で、今回解体修理工事がおこなわれた。

○美術工芸品の部　　10件

―対　象―

真如寺書院襖絵紙本淡彩「西湖図」「花卉図」修理・財団法人冷泉家時雨亭文庫四曲一隻屏風紙本着色「花鳥図」修理・慈照院六曲一隻屏風紙本着色「帝鑑図」「花卉図」修理・松樹院二曲一隻屏風紙本着色「花鳥図」修理・禅林寺書院襖絵紙本淡彩「松鶴図」修理・泉涌寺応接間障壁画紙本淡彩「風景画」「唐美人画」等修理・仁和寺六曲一隻屏風金地着色「山水楼閣図」修理・竹林寺木造釈迦如来座像修理・西養寺本堂襖絵紙本金地着色「松の図」修理・真宗院木造毘沙門天立像修理

○防災施設の部　　１件

―対　象―

妙心寺土蔵屋根葺替及び壁塗替工事

○環境整備の部　　４件

―対　象―

賀茂別雷神社東廻廊東側及び新宮門東側透塀二越屋根修理工事・北野天満宮楼門西側築地塀修理工事・財団法人霊山顕彰会霊山一帯及び各招魂社周辺整備工事・財団法人京都古文化保存協会松毛虫駆除事業

### ３．伝統行事芸能保護事業に対する助成

**42件　　補助金　878万円**

○行事の部　　13件

―対　象―

嵯峨お松明・賀茂競馬・藤森駈馬・糺の森流鏑馬・鞍馬竹伐り会・松上げ（３件）・烏相撲・ずいき祭・北白川高盛御供・鞍馬火祭・日野裸踊

―祇園祭　四条傘鉾―　明治４年（1871）以来、途絶えていたが、当財団の助成などによりおよそ117年ぶりに山鉾巡行に復活した。

○芸能の部　　29件

―対　象―

けまり・雅楽（２件）・念仏狂言（４件）・六斎念仏（11件）・やすらい花（４件）・久多花笠踊・八瀬赦免地踊・松ケ崎題目踊・紅葉音頭（２件）・大原八朔踊・番匠儀式

## 昭和63年度 伝統行事芸能功労者表彰

### ―法人３社・個人９名の基金募金協力者に感謝状を贈呈―

京都の伝統行事、芸能の保存継承に長年にわたり功績のあった功労者と当財団の基金に多額のご寄付をいただいた協力者に対し、去る４月６日京都都ホテルにおいて開催した第40回役員会の席上において当財団会長の今川京都市長と佐伯理事長から一人ひとりに表彰状、感謝状及び記念品が贈呈された。

受賞者は、次のとおり。（敬称略・順不同）

**□伝統行事・芸能功労者**

新木直人（糺の森流鏑馬神事保存会）・石井

昭三（西之京瑞饋神輿保存会）・八木喜久男（壬生大念仏講）・和田定男（久世六斎保存会）・伊藤源市郎（中堂寺六斎会）・池田清之（壬生六斎保存会）・畠中三郎（大原伝統文化保存会）

**□文化観光資源保護協力者**

**（団　体）**

ローム株式会社・大日本スクリーン製造株式会社・サントリー株式会社

**（個　人）**

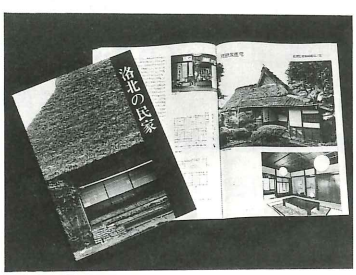
都築久美子・赤松ふみ子・末沢　武・安田孝夫・神崎順一・上田長雄・小野初恵・加藤雅一・辻田純二

京都市文化財ブックス第４集

## 「洛北の民家」発行

京都市文化財ブックス第４集「洛北の民家」（Ａ４版・108ページ）が京都市から発行されました。京都市内北部山間地域に所在する民家をまとめたもので、写真、図面を多用し各家屋の特徴などをわかりやすく解説するとともに、洛北の民家の概要を紹介しています。

会員の皆様でご希望の方は、当財団事務局にて１部1,000円で頒布しております。又、郵送をご希望の方は、別に送料260円（切手可）を同封のうえ、現金書留にてお申し込み下さい。




## 第54回　文化財特別参観のご案内

## 〝冷泉家住宅〟

今回は、藤原定家の流れをくむ和歌の師範家であり、京都市内に残る唯一の公家住宅である冷泉家を訪ねます。

**なお、今回の実施要項がこれまでとかわっておりますのでご注意下さい。**

回参観日時　平成元年６月30日㈮・７月１日㈯（２日間）両日とも午後１時・２時・３時の計３回（参観日時は、当方で指定させていただきますのでご了承下さい。参観時間は、約40分）

回対 象 者　財団募金協力者（会員）とその家族１名（計２名まで）

回申込方法　住所、氏名、年令**（２名での申込の場合は、２名とも記入のこと。記入のない方の参観は出来ません）**を記入し、返信用切手62円分を同封の上、封書によりお申し込み下さい。

回申込締切日　６月10日㈯までに必着のこと

回申 込 先　〒606 京都市左京区岡崎最勝寺町京都会館内
京都市文化観光資源保護財団　宛

回参加費不用

※お問いあわせは、財団事務局まで。なお、参加ご希望が多い場合は、制限することがあります。

## 編集後記

当財団も設立20周年を迎え、現在の基金が約16億１千万円、助成額はこのたび交付しました昭和63年度分をあわせますと計1,780件交付額が約13億円となります。しかしながら、寄付金を基金としてその利息で活動している当財団にとりまして今日の低金利の状況を考えますと今後は、常に長期的展望にたち更に充実した事業運営をしていかなければなりません。皆様方の一層のご支援、ご協力をお願いする次第です。

**―差別をなくして明るい社会をつくろう―**